平成３０年度都城市消防団地域共同訓練

所属団体：正定寺　　**住職：尼子　玄章**

担当班：【給食班】給食給水訓練　　**訓練参加者：６名**

不明点・感じたこと報告書

「平成３０年度都城市消防団地域共同訓練」で、他団体との「共同」は初めての取り組みとのことでしたが、消防団以外の団体との共同訓練ということで、まだ共通認識や役割分担がまとまっていない中ですからギクシャクすることは承知の上で実施された英断と勇気に、まず敬意を表します。なんども繰り返すなかで、都城全体の地域防災意識が高まり、助け合いの精神がより醸成されていくと思っています。

■　【今回の反省点】

【反省点１】　正定寺のスタッフは９時に集合していたのに、お米・食材が届かず、９時から１０時までの１時間をロスしました。「市役所の企画・予算・持ち込み材料で」という第１回目の訓練計画だったので、今回は仕方ありません。

しかし、本当に震度７の地震に山田地域が襲われた時には、災害の初発時点ではインフラは寸断されています。食材が外部から配達されることは望めません。大混乱です。市役所の担当の方々も、四方八方からもたらされる被災情報の収集と整理におわれて、食材を手配する余裕はないと思います。

【解決法１】　災害ボランティアは、自主・自立・無償が基本です。

正定寺が自前のお米・食材（その時の門徒持ち寄りも含む）で、自主自立的に起動しなくてはいけません。市の危機管理センターとの連絡は、市役所側から「炊き出し支援をたのむ、または、正定寺がたのめる状況にあるか否かの**確認電話**をする（当方も重度に被災しているかもしれないので)」、そして**正定寺側から「支援できます」‥‥‥**　との**非常時応答電話**をする。**正定寺では、できれば３０分～６０分以内にいま可能な給食給水の対応・調理運搬スタッフの人数・給食配給可能な人数（〇〇人分）・レシピの結論を出す。**

門徒会の非常電話連絡網を使って**「スタッフは何人集められる」、「何人分を、どこの避難所へ」**と危機管理センターと打ち合わせができたら、あとは連絡を取り合いながらも、正定寺にまかせる、という動きがベターだと思います。門徒外のボランティアの方々とも連携したいです。カレーかおにぎりかレシピもまかせる。配達時間の多少の遅れなども電話連絡でカバーしていく。ともかく動き出すのです。だからこそ、日頃の信頼関係と意思疎通が大事です。

【反省点２】　正定寺としましては、当初予想していたより、訓練に参加する門徒が少なかったことです。正定寺門徒会では、東日本大震災で岩手県山田町を支援。熊本地震で本堂が倒壊した益城町の真宗寺院の廃材撤去作業をボランティア支援をとおして、被災者支援はもとより大切ですが、「お寺は何のためにあるのか。お寺は何ができるのか」を住職と門徒がいっしょに考える自分たちの学びだと位置づけております。

【解決法２】　今回の共同訓練への参加報告を、役員会や寺報でも知らせながら広報活動をしていきます。年々理解者はふえております。

【反省点３】　今回の共同訓練は、地震災害による壊滅的なインフラストップという状況想定でした。２２００Ｗの LPG 発電機と門徒厨房（呼称：滴水庵）の分電盤との直結ができるようにする電気工事がまだできておりません。

【解決法３】分電盤の交換で、平常用（九州電力）と非常時用（発電機）への切換ができる設備にできますので、平成３０年度中に工事を実施します。厨房の照明・水道ポンプが必ず非常時に動くためです。

【解決法４】　給水については、地下８５Ｍからの自噴水を門前まで配管する計画です。平常時には閉じておりますが、非常時は門前でだれでも給水が出来るように、今年度内を目標に配管します。

【その他　考えたこと】

【１：避難所のトイレについて】
東日本大震災・熊本地震などで被災された方々の避難所経験をお聞きしてみますと、まず最初にトイレが「処理能力の超過」で機能不全におちいります。被災者は、給食給水は２～３時間でも待てますが、トイレは待てません。

【１：解決法】
停電・断水状態で避難所を開設したら、まず水洗トイレを使用停止にして、「便器にビニール袋をかぶせて使用」、「防臭・凝固剤の使用」、「排泄物の回収と一時保管」、「災害が落ちついたら燃えるゴミへ」、という問題解決が急務だと思います。防災用品の研究で対応できると思います。

【２：大災害だけでなく、こまやかな安否確認ができたら】
正定寺では毎年秋に住職・副住職が門徒全地区をめぐって「話し合い法座」を実施しております。今年の座談会の話題は、９月３０日に都城地方を通過した台風２４号の猛威でもちきりでした。池之原４日間停電、上下是位川内３日間停電断水、夏尾町上馬渡１０日間停電・１５日間電話不通（正定寺は３０時間停電でした)、皆さんの大変だったことを聞いていて、知らなかった何も出来なかった自分が恥ずかしいと思いました。１日２日の停電は「おたがいさま」ですませられても、お年寄りの限界集落で１０日間停電は過酷です。情報さえあれば何か「給食給水支援」でもできたのに、と思いました。

【２：解決法】　大災害時だけでなく、都城圏域で毎年来る台風被害、局地的暴雨被害などでも、日頃からの見守りや被災者支援ができたらと思ったことです。

【さいごに】　やっぱり日頃の訓練や意識付けが大事だと思いますのは、実際、山田を震度７の地震が襲った時は、多かれ少なかれ市民はみな被災者です。タンスが倒れたり、瓦が落ちたり、家族に体調不良の病人がでたりと。その中にあっても、家を失い、食べ物も寝るところもなくなった人を支えられるかというと、なかなか難しいだろうなあと思います。だからこそ、平常時に防災意識の学習や助け合いの精神の醸成が大事なんだと思います。

【正定寺からの情報発信】　正定寺ではインターネットホームページ「amidanet アミダネット」を開設し、「お寺にもできる災害支援」というコーナーを設け、県内外の寺院に向けて情報発信しております。お寺は宗教施設であり、門徒のものでもありますが、地域における文化や福祉の場所でもあるのです。

https://amidanet.sakura.ne.jp/